

## 異分野融合型研究所の日常と実践

—北海道大学人間知・脳・AI 研究教育センターのエスノグラフィー—

池原優斗

キーワード：異分野融合、実践共同体、アクターネットワーク理論、越境研究、ラボラトリー・スタディーズ

### 要旨

本論の目的は、「文理融合的」な異分野融合的な研究組織では、それを取り巻く制度と物理的空間を含む布置連関の中で、どのようにして異分野融合的なコミュニケーション、および実践が生起するのかを、北海道大学人間知・脳・AI 研究教育センター（CHAIN）におけるエスノグラフィー調査から明らかにすることである。本研究の意義は、社会的な重要性も高まる異分野融合的研究について、それがどのようなものであるのかを明らかにするという点にある。

第1章では、本論の目的、背景について説明する。加えて、本研究の方法および特徴、(1) 筆者は CHAIN の成員として調査を行うこと、(2) 研究実践に積極的に参加すること、(3) 研究実践における日常生活の役割に着目すること、(4) エスノグラフィー調査の例が少ない異分野融合的な研究、および哲学を対象とする点を述べる。

第2章では、フィールドである CHAIN の概要を述べる。

第3章では、実践共同体論からどのように CHAIN を捉えられるかについて考察し、公式の組織としての CHAIN の成員を含む形で、研究、教育、仕事といった実践により結びつく複数の実践共同体が、重なり合うように存在すると捉えられる点を述べた。

第4章では、アクターネットワーク理論に基づいた議論である「ハイブリッドのデザイン」に関する議論、および土橋臣吾によるネットワークへ実践を付加することによる批判についての議論を紹介する。

第5章では、CHAIN が入居する中央キャンパス総合研究棟2号館における CHAIN の空間が、CHAIN が埋め込まれたネットワーク、すなわち中央キャンパス総合研究棟2号館全体の利用上のルール等によってセキュリティが厳しいといった制約を受けていることを議論する。

第6章では、中央キャンパス総合研究棟2号館に備え付けられたカード解錠方式の錠によって、中央キャンパス総合研究棟2号館を仕事場とする CHAIN の成員からなる実践共同体の境界が生成される過程を記述、分析する。この事象は中央キャンパス総合研究棟2

号館の利用のルールや、そのルールの必要性を生み出す、プロジェクトごとに賃料を払ってビルに入居する制度により起こっていると言える。しかし、こうした制度というフィールドで直接観察された事象から描くには限界がある。そのため、青山征彦による意図とエージェンシーに関する議論や、小田亮による「真正性の水準」に関する議論を参照し、制度が影響するようなネットワークにおけるエージェンシーを記述、分析する。また、その際の記述で行った「行われたと想像される行為」を想像することについても検討する。

第7章では、越境研究についての議論を紹介する。また、異分野からの越境を常に経験するという点で、CHAIN を常に越境されるコミュニティとして捉えることが出来ることを論じる。

第8章では、実験室や飲み会における情報工学が専門の教員と調査者との会話から、調査者の学会発表のアイデアが構築される過程を記述し分析する。この事例は、偶発的な日常的な会話の中で学会発表のアイデアが構築されていったものであり、それを「運動としてのエージェンシー」や「ハイブリッドのデザイン」の観点も踏まえて検討した。

第9章では、CHAIN の学生有志によって運営されている「ランチセミナー」の連続企画が企画された過程について検討する。この事例では、調査者を含むそれぞれ専門分野が異なる学生間のコミュニケーションによって企画が生まれた。その過程について、企画を可能にするエージェンシーへの制度と空間の影響、また、各分野の知識を持ち寄るような越境的コミュニケーションに着目しつつ論じる。

第10章では、ヴィーガニズムを推進する学生と、ヴィーガニズムに反論しようとする調査者によるディベート的対話の事例と、その対話によって学習したことを含めて、教員に対してヴィーガニズムについて調査者が説得されていないにもかかわらず、ヴィーガニズムの妥当性を説明し、教員のヴィーガニズムに対する態度が変化するという事例を紹介する。この事例について、越境的コミュニケーション、および空間の観点も踏まえつつ分析する。

第11章では、本論をまとめ、その成果と課題を述べる。

本論は、各章の議論によって、「文理融合的」な異分野融合的研究組織において、知識の創造、イベントの企画、他分野の学習が起こる過程を、その日常生活も含めてエスノグラフィックに記述し、そして、それらが制度を含むネットワークによる制約と偶発性、意図的な行為やデザインの影響を受けながら生起すること、また、越境的、被越境的な経験を伴いながら出来事が生起することを示すものである。